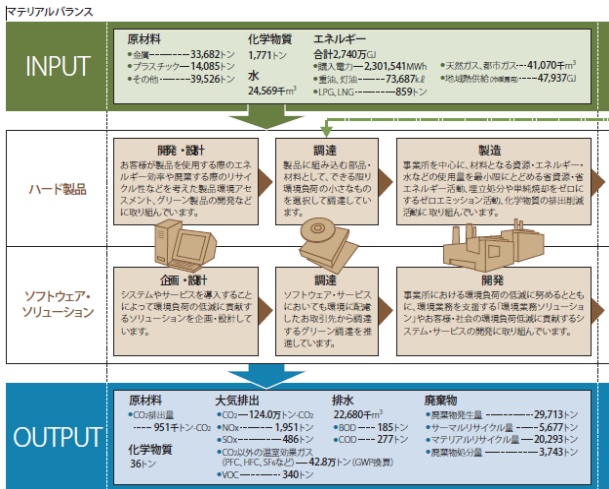


# 「事業活動の環境影響比較」

評価実施者：(株)富士通研究所 基盤技術研究所 環境技術研究部 鈴木 重治

## ● 評価の目的と特徴

- ・ 事業活動の環境影響把握
- ・ 主要製品の製造段階までに限定
- ・ 経年変化を調べ、改善目安となる情報提供



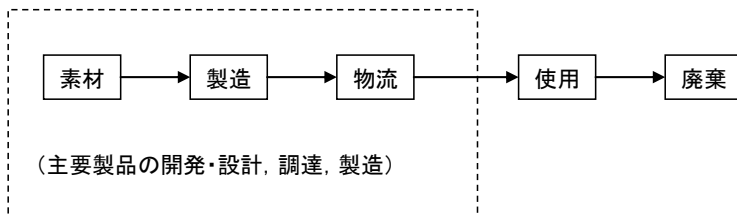
・ 2007年度および2008年度の事業活動における主要製品\*の製造

\* 主要製品：パソコン、携帯電話、サーバなど15種

## ● 機能単位とシステム境界

機能単位：各年度に出荷・製造した主要製品のライフサイクル  
システム境界：原材料調達(素材)、製造、物流段階まで

システム境界



## ● 調査方法

<インベントリ分析>

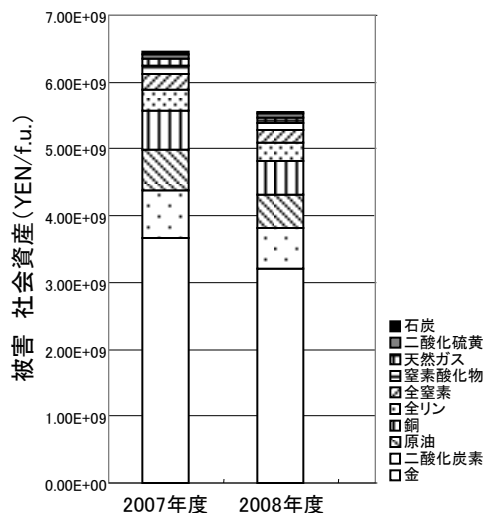
- ・ フォアグラウンドデータ：自社調査、環境報告書
- ・ バックグラウンドデータ：自社データベース

<インパクト評価>

- ・ LIME2

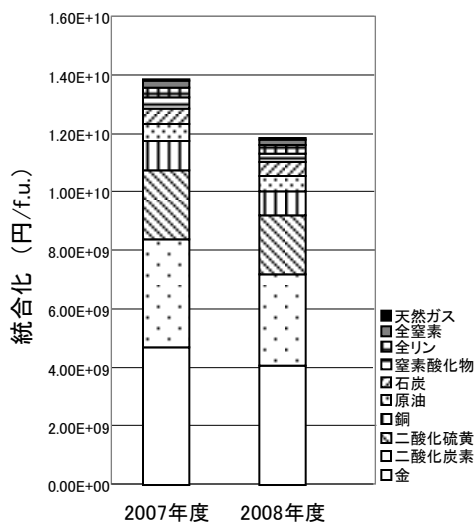
## ● 評価結果

【被害評価結果(社会資産)】



・ 金が全体の半分以上を占め、ついで二酸化炭素、原油、銅の影響が大きい。

【統合化結果(物質別)】



・ 社会資産への影響が大きい金の消費、人間健康や社会資産で影響を与える二酸化炭素と二酸化硫黄の大気への排出が、統合化した際の被害算定額の主要因。

金や原油などの資源消費、ついで二酸化炭素、二酸化硫黄の大気排出による影響が大きい

本評価の限界：素材－製造－物流段階までに限定、使用と廃棄を除外。化学物質は評価対象外。